

令和6年度

教職課程

自己点検・評価報告書

共立女子大学

令和7年6月

共立女子大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・教科）一覧

- ・家政学部（被服学科（中・高 家庭）食物栄養学科（中・高 家庭、栄養）、児童学科（幼・小））
- ・文芸学部（文芸学科（中・高 国語、英語、高 情報））
- ・国際学部（国際学科（中・高 英語、中 社会、高 地歴 公民））
- ・家政学専攻科（被服学専攻、食物学専攻、建築・デザイン専攻（中・高専修 家庭）、児童学専攻（幼専修））
- ・文芸学専攻科（文芸学専攻（中・高専修 国語、英語））
- ・国際学専攻科（国際学専攻（中・高専修 英語、社会、地歴））

大学としての全体評価

本学は、令和 5（2023）年 4 月より第三期中期計画に基づく事業活動を展開している。第三期中期計画では、リーダーシップ教育を中心とした教育・研究活動に注力し、大学としてのブランド力向上を図る方針を掲げている。

本学が育む「リーダーシップ」とは、特定の少数者が主導するものではなく、一人ひとりが主体性を持ち、その場その場に応じて多様な想像力と発想をもって他者と協働しながら目標達成を目指す力を意味する。本学が提唱する「共立リーダーシップ」は、教員としての本質的な資質であり、これを身に付けることが本学の教員養成の目的でもある。さらに、本学の教職課程は総合大学としての特色を活かし、異なる学部の学生同士が専攻の枠を越えて交流し、切磋琢磨できる授業の中で、この資質を育む環境が整っている点が強みである。

本学では、こうした教育環境のもと、3 専攻科および 3 学部（家庭、国語、英語、社会）に設置されている教職課程において、幼稚園、小学校、中学校（家庭、国語、英語、社会）、高等学校（家庭、国語、英語、地理歴史、公民、情報）、栄養の各種教員免許状を取得することができる。教員養成は開放制を採っており、教職課程の授業は学部の垣根を越えて履修できる。そのため、異なる専門分野を学ぶ学生が互いに尊重し合いながら交流を深め、多様な視点に触れつつ、広い視野で教育について考え、豊かな見識を涵養する機会となっている。

教職課程に関する組織的な工夫としては、令和 5（2023）年度に「共通教育センター」を設置し、教職課程を含む全学共通教育の充実と体制の強化を図ってきた。さらに、令和 6（2024）年度からは、同センターの下に中・高教職課程を扱う「教職課程分科会」と、幼小教職課程を扱う「幼小分科会」を設置し、両分科会を統括する「拡大教職課程分科会」を新たに設けた。これにより、教員と職員による協働体制のもと、教職課程の運営や点検・評価体制を一層強化している。

令和 6（2024）年度の自己点検・評価にあたっては、この体制に基づき、全国私立大学教職課程協会が提示する評価基準をもとに実施した。その結果、本学の教職課程が「リーダーシップの共立」を体現する中核的な課程であることが確認されたものの、一方で、教職課程履修者の減少や、修了後に教職に就かない学生の存在といった課題は、依然として改

善の余地がある。したがって、専攻の枠を超えて広い視野で教育について研鑽し、多様な想像力と発想をもってリーダーシップを発揮し、教員免許状を取得したうえで教職を志す学生の増加を図ることが、本学にとって重要な課題である。

共立女子大学

学長 佐藤 雄一

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	2
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	2
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	7
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	11
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	15
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	18

I 教職課程の現況及び特色

1 教職課程の現況

- (1) 大学名：共立女子大学
 (2) 学部名：家政学部、文芸学部、国際学部
 (3) 所在地：東京都千代田区一ツ橋 2-2-1
 (4) 教職課程の履修者数及び教員数 令和7年度(令和7(2025)年5月1日現在)

① 教職課程の履修者数

学部	教職課程履修者数				合計
	1年	2年	3年	4年	
家政学部	202	167	183	186	738
文芸学部	58	48	46	56	208
国際学部	50	52	64	34	200
家政学研究科	0	0	—	—	0
文芸学研究科	0	0	—	—	0
国際学研究科	0	0	—	—	0

② 教員数

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	71	23	11	4	45

※看護学部、ビジネス学部、建築・デザイン学部は教職課程認定を受けていないため、表中には記載していない。

(5) 卒業者の概況 令和6年度卒業生(令和7(2025)年5月1日現在)

学部	就職先状況			
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
家政学部	25	25	6	2
文芸学部	—	—	2	3
国際学部	—	—	0	1
家政学研究科	0	—	0	1

2 特色

共立女子大学では、建学の精神である「女性の自立と自活」と校訓「誠実・勤勉・友愛」を基本理念として、全学及び各学部の人材養成目的が定められている。これらの目的とそれに連なるディプロマ・ポリシー(以下：DP)、カリキュラム・ポリシー(以下：CP)に基づき、幅広く深い教養と専門学問分野における高度な知識・技能、そして実社会における諸課題について対処できる総合的な思考力・判断力を身に付け導くリーダーシップ精神と誠実で豊かな人間性を備えた教員の養成を目的としている。

教職課程の運営に当たっては、全学的な教育の改善及び充実を目的とする「全学教育推進機構」の下に全学共通の教養教育科目および免許・資格関連科目の実施に関する必要な業務を行う「共通教育センター」を設置し、下部組織として「拡大教職課程分科会」を擁している。「拡大教職課程分科会」はさらに「教職課程分科会」「幼小分科会」を下部組織とする。教職課程についての意思決定は下部組織から順に上申し、大学の最高決定機関の「研究科長・学部長・科長会」にて行われる。「拡大教職課程分科会」の構成員は各学部の教職課程担当教員であり各学部教授会との調整を担うなど、全学的な体制を構築している。

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

本学は共立女子職業学校創設の初期から教員養成が行われてきた。開放制である中・高の教職課程の教員養成目標については、令和 4（2022）年度に教職課程分科会で策定し、本学のホームページ（以下：HP）において公開している（資料 1-1-1）。初等教育課程の教員養成目標は教員養成を主な目的とする家政学部児童学科の人材養成目的に準じており教職課程教育の目的・目標に沿ったものとなっている（資料 1-1-2）。また、DP や CP に沿ったカリキュラムマップやツリー、履修系統図も教職課程分科会および家政学部児童学科で確認し、公開している（資料 1-1-3）。本学では全学的に、シラバスでは初回授業に到達目標、カリキュラムマップや履修系統図上の位置づけを説明することを明記することになっており、教職課程分科会委員や家政学部児童学科教員による非常勤講師を含めたすべての教職関連科目を対象に、協働でシラバスチェックを行い確認しあっている。このシラバスチェック作業の過程は、他の教職関連科目の教育目的・目標を知るよい機会になっている。これに加えて各学部での取り組みを以下に示す。

家政学部の被服学科・食物栄養学科では、教員養成目標は全学部共通の目標とともに各学部、学科、専攻、免許教科ごとに策定されており、依拠するものは本学及び家政学部被服学科、食物栄養学科の人材養成目的、DP、CP である。教員養成目標は教職課程ガイダンスや教職関連の授業において取り上げられている。児童学科では、教員間での共有は学科会議等の場において、学生には各授業や新年度ガイダンス等で周知している。

文芸学部では、学生にはオリエンテーション期間に実施する「教職課程ガイダンス」にて周知すると共に、1 年次必修科目である「教職入門」で説明している。

国際学部では、学部の人材養成目的を踏まえた教員養成の目的・目標や教員像の達成は、免許教科の専門性を身につける「教科に関する科目」のカリキュラム構成に大きく依る。そのため本学部では、「(学部)運営委員会」や「英語科教育担当委員会」において専門科目が吟味検討され、その中から「教科に関する科目」を厳選している。さらに、従来から旧「教職に関する科目」の殆どが、学部専門教育科目のうち「自由選択科目」として指定、定着し、学部教育を担っている。また、「社会」「地理歴史」「公民」に必修の「教科に関する科目」の一部(4 科目)は全学共通の教養教育科目から指定されているため、「共通教育センター 教職課程分科会」でも授業内容が確認、検討されている。ゆえに、学部カリキュラム編成や再確認の過程において、学部教員はもとより他学部教員にも本学部の教職課程の目的・目標の共有は十分になされている。

〔優れた取組〕

令和 6（2024）年度においては、令和 8（2026）年度児童学部児童学科の設置認可申請に向け、既存の全学部の教職課程の設置科目・専任教員の関わり等の現状について「研究科

長・学部長・科長会」で報告を行い、改めて教職員への共有を図った。また、4年次の「教育実習」が都内の学校で行われる場合、学生の指導教員（卒ゼミ担当）が訪問指導を行うことになっており、教職課程担当教員以外にも教職に関わる仕組みが出来ている。学生に対しては1年次対象の教職課程ガイダンスや2年次以上を対象とした教育実習や介護等体験の手続きに関するガイダンスで教職課程の目的や教師像について説明を行った。その上で、更に各学部の取り組みを以下に示す。

家政学部では、教職課程に関わる教職員は人材養成目的を共通理解し協働的な取り組みを行う際にもその根底に置いており、被服・食物分野に関する幅広い知識とその実践的な能力を身につけた女性を育成することを主目的として社会で活躍できる人材の教育・育成に努めている。また、家庭科教育の内容は家族・家庭、衣食住生活、消費生活など幅広いが、本学家政学部における学部共通科目や被服学科、食物栄養学科の学びは多様多岐にわたり充実しており、家庭科教育の衣生活領域、食生活領域の専門性に長けた教員を輩出できるところにある（資料 1-1-4）。初等教育課程である児童学科では、学科の人材養成目的等に関する認識共有について、非常勤講師への周知・共有を行う機会として、毎年2月に情報交換会を実施している。常勤教員と非常勤教員の交流機会を設けるとともに、授業運営やカリキュラム等に関する情報伝達を行っている。

文芸学部では、国語科、英語科、情報科の課程において次の取り組みを行なっている。国語科の教職課程は文芸学部にのみ置かれているため、学部の人材養成目的に基づき、国語に限定されることなく、文学と芸術の双方にまたがる広範な教養を身に付けることを前提とした教員養成を行っている。また、後期開講の授業科目「課題解決ワークショップ」

（1年次必修）で行われる「4年生の話」では、積極的に司書や国語科教職履修の4年生に依頼するなどして、学生への履修への興味関心を喚起するようにしている。英語科では担当教員は定期的にさまざまな委員会やワーキンググループに参加し、実現可能な目標を策定することで、指導体制の最適化や教材、授業の改善を行っている。また、担当教員の知識・技能の向上、研究倫理教育及び英語科教育の応用に向けた取り組みを行っている。情報科は平成26（2014）年に国内の文化系学部としては稀な課程として設置され、情報科領域の情報科学や教育工学の専門的な知識・方法の修得のみにとどまることなく、さまざまな言語・文学・芸術、さらには文化・メディアに関する、広範な教養と実践的なスキルを身に付けることを通して、高度情報化社会における世界文化的素養と視点をもつ情報文化社会人として、多様化かつ国際化する教育現場に柔軟に対応し、リーダーシップを発揮して活躍できる情報科教員の養成を目標としている。なお、文芸学部は文芸学科のみの1学科（専攻制）である特徴を生かし、新たに設計したメジャー・サブメジャー制度とともに、広範な学問分野から興味のある分野を複数学べ、複数教科にわたる教員免許状の取得も可能である。

国際学部の特徴として、学部専任教員の教職課程カリキュラム運営への実質的な関与がある。「英語科」の場合、「教科に関する科目」には学部専門科目30科目が指定され、そのうち専任教員の担当は15科目。「社会科」は35科目のうち23科目、「地理歴史科」は17科目のうち11科目、「公民科」は23科目のうち18科目を専任教員が担当し、教職課程の目的・目標を意識した指導を行っている。さらに、3学部共通の「教職の基礎的理解に関

する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち5科目を学部所属の教職課程専任教員が受け持ち、ほぼ全ての学部教員が授業実践を通じて教職課程に目配りをしている。

〔改善の方向性・課題〕

本学の教員養成目標や履修系統図などについて、教職課程分科会委員は理解しているが、それ以外の専任教員や非常勤講師については、理解の程度に差がある。教職課程分科会において情報共有方法や理解の浸透に向けた方策を検討することが急務である。また、取得希望の各学校種及び免許教科の学習範囲（学習指導要領）と照らし合わせ、各学生がどの程度教科の専門性を修得したか、教職課程の目的・目標を達成しているか、教育実習開始までの具体的な学修到達度を把握できず、教員による訪問指導の際の情報が不足している状況となっている。学生が作成した教職履修カルテの活用について検討を行う。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：共立女子大学 HP「中学校・高等学校教諭 教員養成目標」
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/culture/purpose/>
- ・資料 1-1-2：共立女子大学 HP「家政学部児童学科人材養成目的・3つのポリシー」
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/academics/undergraduate/kasei/jidou/purpose/>
- ・資料 1-1-3：教職課程（中学校教諭一種・高等学校教諭一種）履修系統図
<https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/academics/culture/curriculum/diagram/2025/kyoyo-teaching-school.pdf>
- ・資料 1-1-4：2024 履修ガイド P55～61「家政学部共通科目、被服学科専門科目、食物栄養学科専門科目 カリキュラム」
https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/academics/culture/curriculum/outline/kyoritsu-wu_guide_u_2024.pdf

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

先に述べたように、教職課程の運営に当たっては、全学的な教育の改善及び充実を目的とする「全学教育推進機構」の下に全学共通の教養教育科目および免許・資格関連科目の実施に関する必要な業務を行う「共通教育センター」を令和 5（2023）年度に設置し、下部組織として令和 6（2024）年度より「拡大教職課程分科会」を擁している（資料 1-2-1）。「拡大教職課程分科会」はさらに「教職課程分科会」「幼小分科会」を下部組織とする。「教職課程分科会」は中・高教職課程に関する事項を、「幼小分科会」は幼小教職課程に関する事項を検討する組織である。文部科学省への届出や自己点検評価など双方の教職課程に関連する事項を検討するのが「拡大教職課程分科会」となっている。全ての分科会において、各学部の教職課程担当教員と教務課職員が参画しており協働体制が構築されている。

FD 実施については、教職課程担当教員が全国私立大学教職課程協会主催の研究大会や関東私立大学教職課程研究連絡協議会に参加し、教職課程分科会構成員に対して研修報告書の共有がなされている。

ICT 環境の整備状況については、全講義室に配信用カメラを設置し遠隔での授業も可能となっている。また、全学生が My パソコン必携となっており、学生が自身のパソコンを繋いだり、電子資料をもとに授業を展開することも可能になっている。

履修学生の履修指導体制については、基本的には担任（アカデミック・アドバイザー）によるが、教職課程担当教員は教職履修カルテにより学修の振り返り、成果を確認しコメントすることができるようになっている。また、教職課程担当教員が 1 年次対象の教職課程ガイダンスや 2 年次以上を対象とした教育実習や介護等体験の手続きに関するガイダンスに参加し、学生への指導を行っている。

〔優れた取組〕

家政学部の被服学科・食物栄養学科では、教職課程認定基準を充足する教員（実務家教員）、免許教科「家庭」指導教員、「栄養教諭」指導教員の配置がされており、協働・連携して教職課程の運営を行っている。教科に関する家政学部共通科目や学科専門科目を担当する教員には、家庭科教職課程の教科科目であることを認識するよう共有化を計っている。また、教員免許更新制が廃止されたことにより、ライフコース上のキャリア形成のひとつとして教員免許取得を視野に入れる学生が増えた。教職課程の授業においても、卒業生教員の活躍や上級学年の履修学生の様子を紹介するなど、生涯のいちキャリアとしての教職課程履修の意義を提示している。さらには、担任（アカデミック・アドバイザー）による指導に加え、教職課程担当教員が必要に応じて個別面談を行うことや、教育実習日誌や介護等体験ノートについても確認しコメントしている。児童学科では、教職課程のうち実習関連授業について、実習指導担当教員・助手全員を構成員とする実習委員会を組織し、月 1 回程度会議を開催している。異なる実習種間で情報共有を行い、指導の体制や方針あ

るいは評価のあり方等について協議を行う体制を整えている。また、カリキュラムについても、幼稚園教諭一種免許および小学校教諭一種免許の取得を目指す幼小履修モデルと、幼稚園教諭一種免許および保育士資格の取得を目指す幼保履修モデルがあり、どちらを選択するかは、入学時ガイダンス及び履修モデル説明会において、学科主任・教務担当者・実習担当者から情報提供を行い、学生が主体的に履修モデルの選択を行える体制を取っている。

文芸学部では、国語、英語、情報の3教科の取得が可能であり、前述の「拡大教職課程分科会」にも各教科を指導する専任教員が参画し、専門科目との時間割重複等を確認し、学生が教職課程を履修しやすい環境を整えている。

国際学部では、学部専任教員のほとんどが「教科に関する科目」「教職の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」「66条の6に関する科目」を担当し、全学部体制で教職課程に携わり教員養成に取り組んでいる。また、1年次前期の必修科目「基礎ゼミナール」では、学生の教職課程履修の動機づけを図り、かつまた担当教員の教職課程への意識を喚起するため、合同で複数の学部卒業生を招待する会など設け、うち教職課程履修者にはその経験ややり甲斐を話して貰っている。

〔改善の方向性・課題〕

令和6(2024)年度より「拡大教職課程分科会」が設置され、中・高教職課程と幼小教職課程における双方の取り組みや課題を共有できる環境が整ったが、報告に留まっており、教職課程の在り方や取り組みの相互支援方策などの深い議論には至っていない。組織的な改善を行えるよう分科会の役割を確立し運営に当たっていく。

学修成果の確認は各授業担当レベルで実施しており、振り返りの確認や学生の自己評価等のチェックは行っているが、カリキュラム単位での分析や教職課程全体での見直しに活用できていない。教職履修カルテの記載内容や授業評価アンケートの結果等も活用し、学修成果の把握・活用促進する体制を整えていく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1：共立女子大学 共通教育センター体制

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

教職課程の設置学部や取得できる資格については、大学案内や本学 HP に掲載すると共に、オープンキャンパス等において、情報提供に努めている。また、前述のとおり教員養成目標や教職課程の履修系統図も HP に公開している。また、新入生に対して、中・高教職課程においては入学後のオリエンテーション期間中に「教職課程ガイダンス」の実施とポータルシステムへの資格希望登録期間を設け、教職希望者を広く募っている。2 年次以降も各学年に合わせた「教職課程ガイダンス」を行い、教員免許状が授与されるまでの過程の説明や履修登録科目の注意喚起を行い、教職課程履修者であることの自覚を促している。

幼小教職課程においては、教員養成を主な目的とするためアドミッション・ポリシー（以下：AP）に即した入学者選抜を行っていることを前提に、入学時のガイダンスや各授業において教職課程履修者の自覚を促している。

本学では CAP 制をとっているが、教職課程履修者については、担任（アカデミック・アドバイザー）の面談指導の下、履修上限単位数の緩和措置を取っており、学生の履修意欲を高める工夫をしている。また、教職に関する科目については、免許取得を目指さない学生についても教養として意義のあるものと位置づけ、誰でも履修登録できるようにしている。一方、教員免許状取得の意思を固めた学生に対しては、介護等体験、教育実習の実施に当たり、指定科目の修得や英語科においては外部試験（TOEIC 等）取得の要件を定め、教職に資する学生を養成している（資料 2-1-1）。

〔優れた取組〕

家政学部の中・高教職課程では、全学共通の「教職課程ガイダンス」とは別に 1 年次対象のガイダンスを実施し、「教職入門」の履修を勧めている。また、年 2 回、卒業生教員を学外講師として講義の時間を設け、教職への関心や意欲を喚起させている（資料 2-1-2、2-1-3）。幼小教職課程では、実習事前事後指導を通じてあるいは実習中の学修について、学修態度や提出物の遅延等実習に臨む姿勢に疑義の見られる学生に対して、適宜特別面談を実施している。面談の場において、教職を担うべき者として望ましい人物像や倫理観を伝え、人材育成に資する機会となっている。

文芸学部の国語科に関しては、ここ数年、言葉に関わる能力の低下が感じられるようになったこと、新指導要領において「生徒の主体的な言語活動」が重視されたことなどを受け、令和 5（2023）年度入学生より、国語科の「教科及び教科の指導法に関する科目」の「国語学」に関わる部分の必要単位を 4 単位分増やしている（資料 2-1-4）。現況に合わせて国語科教員としての資質能力を高めるカリキュラム編成となるよう適宜見直しを行っている。

国際学部では、学部独自の「教職課程ガイダンス」を実施し、教職課程担当教員への質

疑応答の時間を設けている。また、1年次全員を対象に「ニュース時事能力検定」「世界遺産検定」の受験を推奨（受験料は学部負担）し、学生が社会科学領域全般の知識・教養を深め、社会科学系の教職課程履修に繋がり主体的学修をけん引する仕組みを整えている。さらに、4年次の教育実習に向けて行われる教育実習資格審査で「英語科」の免許取得希望者は外部試験にて一定の成績を取得する必要があるため、TOEIC テストの受験機会の創出と受検費補助を実施し、経済的・精神的負担軽減を図り、より多くの学生が資格審査に通過できるよう支援をしている。

〔改善の方向性・課題〕

中・高教職課程においては、「教職課程ガイダンス」等で履修に際しての姿勢や心構えについて伝え、策定された教員養成目標の説明も行っているが、その時々状況に応じて教職課程履修者数の増減があるため、履修者数の変化に即応できるような体制を組む必要がある。また、親の勧めによる履修者も少なくなく、学生本人の希望によるとは限らない状況もあり、教科に要する知識・技能は当然のことながら実習に向けた態度・資質を涵養することも急務となっている。幼小教職課程においては、学生の確保について、少子化や全国的な教職志願者減を受けて、本学児童学科でも志願者確保が課題となりつつある。また、小学校教員免許取得希望者において、ここ数年資質能力の低下が感じられるようになってきている。これらの課題を受けて、令和7（2025）年度からのカリキュラム変更し、その中で、実習時期を早め、理論と実践を結びつけながら学ぶ機会を増えよう3年次に小学校実習を実施することや、学外での教職経験を促すために保育・教育現場でのインターンシップを単位化する科目「保育・教育フィールド演習」を設置する。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1：2024 履修ガイド P207-209、P231、P234-235、P238-239 「教育実習要件」
https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/pdf/academics/culture/curriculum/outline/kyoritsu-wu_guide_u_2024.pdf
- ・資料 2-1-2：「家庭科教育の理論と方法」 シラバス第 19 回
- ・資料 2-1-3：「家庭科教育の理論と実践」 シラバス第 7 回

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

教員希望者に対しては、学生支援課キャリア支援グループを通じて、教員採用に関する案内や掲示を適宜行っている。また、教員採用試験の対策を希望する学生には、キャリア支援グループによる書類添削や面接対策などキャリアカウンセリングを受けられる体制を整え、学生のニーズに合わせた支援を実施している。また、授業担当を実務経験のある教員が担当したり、卒業生教員等の臨時講師や東京都の指導主事をゲストスピーカーとして招聘するなどして、実際の教育現場に関する話を聞く機会を設け、キャリア像の形成とキャリアに繋がられるよう授業を行っている。

教員採用試験の対策としては、図書館雑誌コーナーに月刊誌「教職セミナー」「教職課程」を配架している。また、新2年生のガイダンスにおいて、3年次前倒し採用試験に対する説明会を開催することを周知した。従来から家庭科教職課程の中で行ってきたものを、中・高教職課程の全履修生にも広げ、希望する学生に対し行ったものである。採用試験への見通しを自覚させるとともに、具体的な採用試験対策としての準備、学習方法を考える契機とするものであるが、説明会には全学部にわたり、前倒し試験の受験希望者が参加した（資料 2-2-1）

〔優れた取組〕

家政学部では、教職に就こうとする学生の支援はそれぞれの部署・担当で行われており、学生が求める限りでの対応ができるようになってきている。特に卒業生教員の存在は大きく、家庭科教科科目の授業においては具体的な進路への示唆をいただいております。教員、学生支援課キャリア支援グループなどの部署とも個々に連携し、学生のニーズや適性に基づき支援を行っている。

幼小教職課程では、学科の就職進路委員会委員によるキャリアガイダンスを毎年実施し、幼稚園教諭および小学校教諭の卒業生を招聘し、あるいは就職活動を経験した4年生から経験を聞く機会を設けている。また、教員採用に関する案内や掲示を適宜行うとともに、東京都特別区の幼稚園教諭採用に関する説明会を毎年実施し、人事担当者及び幼稚園教諭を招聘している。また、授業内で卒業生教員等の臨時講師を通して、将来へのキャリア像の形成とキャリアに繋がられるような支援も行っている。

文芸学部では、国語科教育の担当教員が卒業生の公立・私立の国語科現任教員からの専任教員・非常勤講師の依頼の窓口となり、教職課程履修者に適宜かつ随時、紹介あるいは斡旋を行っている。

文芸学部、国際学部が要する英語科では、英語科教育法（TEFL/TESL）の理論と実践を学びたい学生をサポートするため、実際に授業で扱うテーマごとに、講義、グループプロジェクト、ディスカッション、模擬授業と他学生の授業の見学を行っている。英語圏や日本の学校教育における言語学習と教育に関する豊富な経験と研究業績を持っているネイティブの教員が指導に当たっており、英語の授業を英語で指導できる教員の養成を図っている。

〔改善の方向性・課題〕

教員採用試験対策においては、東京都を中心に行っているため東京都以外を目指す学生のニーズに基づく適切な就職支援体制については、引き続き検討を行う。また、一部の教員によって教員採用試験を受験する学生に対して、首都圏の教員採用試験の過去問の提示や面接対策などが行われているが、より全体的・包括的な取り組みが必要である。さらに、教員採用試験の日程が早期化し試験内容も変化していることから、3年次に中・高教職課程の教育実習を行うことも検討されたが、本学の実情を考えると難しいと結論付けられた。今度、よりよい方策を見出すことが課題となっている。さらには、学生の居住自治体や出身自治体の試験動向や教員の働き方改革を把握して、細やかな情報を提供するなどし、受験への躊躇や及び腰の姿勢を払拭したい。

幼小教職課程では、教員採用試験の日程・科目の変更に対して、学科としてどのように対応するか課題となっている。特に日程の早期化に対しては、カリキュラム変更によって小学校実習を4年次から3年次後期に実施する。この変更により、実習中に採用試験を迎えることが避けられるとともに、実習後に小学校教諭への進路変更をしやすくなることが期待される。また、例年実施している学年ごとのキャリアガイダンスをさらなる充実化をはかる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1：ガイダンス配布資料【教職課程履修のみなさんへ】

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

本学では建学の精神に基づき「他者と協働して目標達成を目指すリーダーシップ教育」を強化している。このリーダーシップ教育はアクティブラーニングやグループワークを用いる教育方法であり、教職科目での実践により取得する教員免許状の特性に応じた課題発見や課題解決等の実践的指導力を育成している。また、各学部の専門科目であり、教職課程における「教科及び教科の指導法に関する科目」においても多用されている。

ICT の導入状況については、全講義室に配信用カメラを設置し学生の模擬授業の様子等を録画することが可能となっている。また、全学生が My パソコン必携となっており、授業資料をポータルサイトにアップし各自の端末で確認するなど、情報活用能力を育てる教育に対応している。

教職履修カルテについては、中・高教職課程では Web 化しておりポータルサイト上で学生はいつでもどこでも確認できるようになっている。また、記載内容は教職課程担当教員だけではなく、全専任職員が閲覧可能となっている。教職課程担当教員は「教職実践演習」において活用している。幼小教職課程においても、紙での運用が続いているが、年 1 回提出が義務付けられ教員が確認する仕組みを構築している。

〔優れた取組〕

家政学部では、教職課程カリキュラムの編成においては、家政学部共通科目及び被服学科・食物栄養学科の系統的で多様なカリキュラムが教職関連科目や家庭科教育に関する科目、栄養教諭の教職課程に関する科目と結びつき、今日的 content や課題に多様に対応できる能力を育むことができるようになっている。

幼小教育課程の児童学科では、現在のカリキュラムでは、学科専門科目がほぼすべて免許資格科目となっているため、教師としての幅広い教養の育成について課題があった。そのため、令和 7 (2025) 年度ではカリキュラムの改革を行い、保育・教育学の幅広い学びに誘い履修モデルの選択の材料ともなる初年次科目として「児童学を学ぶ」を新規開設するとともに、児童学の学びを主体的に発展させ自律的思考力や問題解決能力を養う科目として「保育・教育特別演習」を開設する。

文芸学部では、教職課程カリキュラムは科目の一部を学部の卒業要件科目に含め課程認定基準を満たしたうえで、履修科目ができるだけ少なくなるよう調整している。また、コースの専攻分野に制限なく、全学部生が教職課程を履修することが可能となっている点が特徴である。さらに、国語科と英語科の指導法においては、併設校の現役中高教員が担当し、実際の授業計画や授業実践を指導し、1 年かけて翌年度の教育実習に向けて実践的指導力を育成している。

国際学部でも、教職課程科目を卒業要件科目の一部として含めることができるようになっている。また、卒業要件の半分を英語による授業で修得可能な GSE プログラムを設置し

ている。英語科の教員免許を目指す英語運用能力の高い学生が GSE プログラムと教職課程の履修を両立できるよう時間割を配慮している。また、英語科の指導法においては、文芸学部同様に併設校の現役中高教員が担当し、実際の授業計画や授業実践を指導し、1 年かけて翌年度の教育実習に向けて実践的指導力を育成している。

〔改善の方向性・課題〕

教員採用試験の前倒しによって、教育実習の実施時期に検討が必要であるが、3 学部共通の教職課程カリキュラムを基本とする本学においては、全学のカリキュラムの見直しとなり、改善には時間を要する。まずは教職課程カリキュラムの全学的な理解・浸透に取り組む。

また、教職課程科目について、非常勤講師が担当する授業も少なくない。専任教員の担当比率が高まるよう、教職課程科目と専門科目の担当教員の調整依頼を検討する。

幼小教職課程の児童学科では、令和 7（2025）年度より実践的指導力をより効果的に育成するため、模擬保育室、模擬授業室から構成される「保育・教育実習支援ラボ」を設置する。教育実習を実際の場面を想定し、学生が授業の組み立て方、児童支援のあり方などを体験的に学べるようになる。

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

介護等体験の実施に当たっては、事前指導として特別支援学校の教員と東京都社会福祉協議会の職員の方々に介護等体験の意義や施設の紹介、体験に向けての注意事項等の講演を行っていただいている。事前指導の感想、体験当日の日誌、感想を記載し振り返りに活用している。また、教職履修カルテにも教育に関わるボランティアやインターンシップ経験を記入し、「教職実践演習」の授業内で振り返りを行っている。

中・高教職課程では、「教育の方法と技術」の科目にて、近隣の中学校への訪問見学を行い、学生には ICT 機器や一人一台 PC 端末を用いた授業実践、SDGs を大きく意識した学校経営、通級指導の実際など、同校の管理職との Q&A を交え、最先端の教育方法を学ぶ機会を設けている。また、同学校が募集する学生ボランティアについて、校長の依頼を受けて案内のパンフレットを配布し、応募を奨励している。さらに「教育の制度と経営」の科目では、東京都教育委員会の指導主事による地方教育行政の制度や政策に関する講義を実施したり、千代田区の教育委員会事務局の行政職員及び指導主事より区教育委員会の仕組みや公立学校教育の現状、教員の業務などを学ぶ機会を設けて、地方教育行政への理解を深めるようにしている。

幼小教職課程では、学校体験活動や学習指導員としての活動など校園現場での体験活動を行う機会の確保については、教育実習の授業担当者や助手等によって適宜情報提供がなされている。また、近隣地域から依頼が届いたアルバイト・ボランティア情報についてチラシ・パンフレットの閲覧コーナーを設けており、令和5(2023)年度からは、情報閲覧コーナーに設置している掲示板に加え、学生の情報閲覧の便宜を図るために学内限定のウェブ掲示板を設けた。実習参加要件である救命救急講習については、地域の消防署(千代田区神田消防署)と連携して、毎年夏季休暇を利用して2年次に実施し、子どもの命の安全を守る危機管理能力の育成を図っている。

〔優れた取組〕

中・高教職課程においては、教育実習校である併設中学・高等学校とは連携体制にあり、コロナ禍以降一時中断しているものの、学生の中高授業の見学や教育実習について教職員が情報を交換しあえる機会を設けている。また、一部科目は現役の中高教員が非常勤講師として授業担当を担っており、教育実践の最新事情について学生が理解することができる。さらに、一般企業および卒業生が勤務する中高と連携し、ICT を活用した新しい教授法の研究や開発を行っている。

幼小教職課程においては、「児童学基礎演習」にて、教育現場を実地に経験する機会として、千代田区内の幼稚園・保育所・小学校と連携して見学を実施し、実践的指導力育成の基礎を養っている。また、児童学の学びを深めるために、近隣教育施設である昭和館(千代田区)とおもちゃ美術館(新宿区)の見学も実施している。千代田区との地域連携事業として、造形ワークショップ(「親子で描き・つくるワークショップ」)を実施している。この事業は、未就学児から小学生児童(低学年程度)を対象とした「都市での子育て」を支

援する事業であり、千代田区からの委託事業として予算化もされている。サポートスタッフとして参加する学生にとって、千代田区在住の親子と関わる中で実践的指導力を高める貴重な場となっている。

〔改善の方向性・課題〕

中・高教職課程では、教育活動に資するアルバイトやボランティアは情報提供に留まっており、学生の積極的な参加に繋がっていない。経済的な理由で生活のためのアルバイトが必須になっている学生がいることや、中高の活動時間に大学の授業が過密になっていることから学外の活動をする時間を捻出することが難しいことが理由として挙げられる。教職課程のみならず、全学的なカリキュラムの見直しをして学生のキャリア形成に繋げる必要がある。

幼小教職課程では学外での教職経験をさらに促すため、令和 7（2025）年度からの新規科目である「保育・教育フィールド演習」にて、保育・教育現場でのインターンシップの単位化する。近隣地域の校園との連携をさらに深め、インターン受け入れ先の確保に努めるとともに、学生のキャリア形成につなげていくことが課題である。

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

本学は、1886年創立の共立女子職業学校を母体とし、女性への専門的知識と高度な技能習得を目的とし、その中でも教員養成は創設初期より130年以上にわたり行われている。令和6（2024）年現在、本学の教員養成課程は、建学の精神である「女性の自立と自活」と校訓「誠実・勤勉・友愛」を基本理念として、全学及び各学部の人材養成目的が定められている。これらの目的とそれに連なるDPとCPに基づき、幅広く深く教養と専門学問分野における高度な知識・技能、そして実社会における諸課題について対処できる総合的な思考力・判断力を身に付け、周囲を導くリーダーシップと誠実で豊かな人間性を備えた教員の養成を目的としている。以上のような理念に基づく本学教職課程における自己点検結果（本報告書）の要点を以下に記す。

・基準領域1：教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

本学は創設当初から教員養成に取り組み、現在も教職課程分科会を中心に、教員養成の目的・目標を策定し、各学部・学科に応じた教職課程を構築・運営しながら、教職課程教育の目的・目標を共有している。家政学部では被服学科・食物栄養学科・児童学科がそれぞれの人材養成目的に沿って教職課程を設置し、教職課程ガイダンスや授業を通じて学生への周知を図っている。文芸学部では国語科、英語科、情報科において、それぞれの専門性を活かした教育が行われており、履修の興味喚起にも工夫を凝らしている。国際学部では教員免許に関連する多数の専門科目を専任教員が担当し、教職課程の目的に即した授業運営を行っている。全学的には、シラバスで授業の到達目標や履修系統図の説明を明記し、教員間の協働によるチェック体制も整備している。また、学生への教職課程の目的や教師像の説明も各年次のガイダンス等で実施している。さらに、教育実習時には指導教員が訪問指導を行う体制も構築している。一方で、教職課程分科会委員以外の教職員における目的・目標の理解度に差があり、学修到達度の把握や教職履修カルテの活用など、情報共有と学修評価の仕組みの強化が今後の課題である。

教職課程に関する組織的工夫としては、本学では、令和5（2023）年度に「共通教育センター」を設置し、令和6（2024）年度からは「拡大教職課程分科会」を設けて教職課程運営の強化を図っている。同分科会の下に中・高教職課程を扱う「教職課程分科会」と、幼小教職課程を扱う「幼小分科会」があり、教員と職員による協働体制で各種課題に対応している。FD活動やICT環境整備、学生への履修指導体制も整っており、教職履修カルテを用いた指導が行われている。特に家政学部では、家庭科や栄養教諭関連の教員が連携して教職課程を運営し、学生のキャリア形成を視野に入れた教育がなされている。児童学科では実習委員会を通じて実習の質向上を図っているほか、履修モデルの選択支援も充実している。文芸学部・国際学部でも専任教員が積極的に関与し、教職課程履修がしやすい環境を整備している。一方で、分科会では報告に留まり議論が深まっておらず、カリキュラム全体での学修成果の分析や活用が不十分であるため、今後は分科会の機能強化と成果の全体的把握体制の構築が課題である。

・基準領域2：学生の確保・育成・キャリア支援

本学では、教職を担うべき適切な学生の確保・育成のために、教職課程の情報を大学案内やHP、オープンキャンパス等で広く発信し、新入生にはオリエンテーション期間中にガイダンスを行い、資格希望登録を促している。幼小教職課程では、教員養成を前提とした選抜とガイダンスを通じ、履修者としての自覚を促進している。CAP制の中で教職課程履修者には履修上限緩和を実施し、教職科目は希望者以外にも教養科目として開放されている。また、免許取得には指定科目の修得や英語科における外部試験の成績取得が求められる。

家政学部では独自のガイダンスや卒業生による講義で教職への意欲を高め、幼小教職課程では実習に問題のある学生に対し面談を実施し、教員としての資質を育成している。文芸学部では国語科の必要単位数を見直し、国語力向上に取り組んでいる。国際学部では独自ガイダンスや検定試験の受験支援を行い、英語科免許取得に向けたサポート体制も整えている。

一方で、履修者数の変動や本人の意思によらない履修、資質不足の問題が課題であり、令和7（2025）年度からはカリキュラム改訂により、小学校実習の早期実施やインターンシップ科目の新設を通じて理論と実践を結びつけた学修機会の拡充を図る。

教職へのキャリア支援としては、本学では教員希望者に対し、学生支援課キャリア支援グループを通じて教員採用に関する情報提供や、書類添削・面接対策などのキャリア支援を行っている。また、実務経験のある教員や卒業生教員、教育委員会職員を招いた授業を実施し、教育現場の理解とキャリア形成を促進している。図書館には教員採用対策雑誌を配架し、早期採用試験に向けたガイダンスも開催されている。

家政学部では、卒業生や各部署と連携し個別支援を実施。幼小教職課程では、卒業生や現役学生との交流を通じたキャリアガイダンスや、特別区の説明会など具体的な支援を展開している。文芸学部では、卒業生の採用情報を教員が仲介し、随時紹介を行う体制がある。英語科教育では、ネイティブ教員による理論と実践を融合した授業で、英語で授業ができる教員育成を目指している。

一方、東京都中心の支援体制に課題があり、他地域志望者への対応や、より包括的な採用試験対策が求められている。また、試験日程の早期化に伴う対応も必要であり、3年次後期に小学校実習を実施するなどのカリキュラム改訂により対応を図っている。今後は、自治体ごとの動向に応じた情報提供の強化が課題である。

・基準領域3：適切な教職課程カリキュラム

教職課程カリキュラムの編成・実施としては、本学では建学の精神に基づき、協働によるリーダーシップ教育を重視し、アクティブラーニングやグループワークを通じて課題発見・解決能力を養っている。ICT環境も整備され、模擬授業の録画やポータルサイトを活用した資料配布、教職履修カルテのWeb化などにより、学生の学習支援が充実している。特に中・高教職課程ではオンラインでの自己管理が可能となり、幼小教職課程でも紙媒体での運用を継続しつつ教員による確認体制を整えている。

各学部では独自の工夫が施されており、家政学部では専門科目と教職課程が有機的に連携し、多様な課題に対応できる教育が行われている。児童学科では令和7（2025）年度から教養や自律的思考力を育てる新科目を導入予定。文芸学部と国際学部では、教職課程を卒業要件に組み込み、現任教員による授業で実践的な指導力を育成しているほか、英語での授業が可能なGSEプログラムも設置されている。課題としては、教員採用試験の早期化に伴う教育実習時期の見直しが挙げられ、全学的なカリキュラム調整が求められている。また、非常勤講師の多さへの対応として、専任教員の担当比率を高める調整が必要とされている。児童学科では新たに「保育・教育実習支援ラボ」を設け、体験的学習による実践力の強化を図る。

実践的指導力育成と地域との連携としては、本学では、教職課程における実践的指導力の育成を重視し、事前指導や校園での体験活動、外部講師による講義など多面的な取り組みを行っている。介護等体験の事前には特別支援学校教員や福祉関係者による講演を実施し、体験後の振り返りも重視している。中・高教職課程では中学校の訪問見学や教育委員会による講義を通じて現場理解を深めており、学生ボランティアの案内も行っている。幼小教職課程では、学外活動の情報提供や救命講習、体験活動機会の確保に取り組み、令和5（2023）年度からは学内掲示板に加え、ウェブ掲示板を設けて利便性を向上させた。特に優れた取り組みとして、中・高教職課程では併設校との連携や現任教員による授業が挙げられ、企業や卒業生との協働によるICT教育の研究も進められている。幼小教職課程では地域施設との連携見学や、造形ワークショップを通じた地域貢献型教育を実施し、学生の実践力を育成している。

なお、課題としては、中・高教職課程でのアルバイトやボランティアへの参加率の低さがあり、時間や経済的制約が背景にある。今後は教職課程に限らず、全学的なカリキュラム見直しが求められている。幼小教職課程では、令和7（2025）年度からの新科目「保育・教育フィールド演習」でインターンシップの単位化を図り、現場経験とキャリア形成の支援を強化する方針である。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

内容	日程	教務課・拡大教職課程分科会対応
準備	2024年9月30日	拡大教職課程分科会を開催。本年度の教職課程自己点検・評価報告書の作成プロセスを確認した。
	2025年2月6日	拡大教職課程分科会にて割り振り、執筆事項について確認を行う。
執筆	2025年 2月6日(木)～3月31日(月)	今年度の自己点検・評価項目に基づき、「改善」を検討し「計画」を策定
		「計画」に基づく教育活動および改善の実施
		自己点検・評価項目に沿って、「計画」に基づき実施した活動を、根拠に基づき「点検・評価」する
		担当ごとに「自己点検・評価シート」へ記載
完成	4月1日(火)～22日(火)	「自己点検・評価シート」記載内容の確認・完成
会議体へ諮る	4月22日(火)～28日(月)	拡大教職課程分科会 承認
	5月8日(木)	共通教育センター運営会議へ上程
	5月15日(木)	全学教育推進機構へ上程
	5月30日(金)	大学企画課へ提出
	6月10日(火)	全学自己点検・評価委員会 上程
	6月17日(火)	研究科長・学部長・科長会 上程
	6月24日(火)	常務理事会 上程
公開	6月30日(月)まで	HP公開
	6月30日(月)まで	全国私立大学教職課程協会提出

共通教育センター運営会議		委員
1) センター長	全学教育推進機構員	◎ 藤田 雅夫
3) 教養分科会委員長	国際学部	石井 久生
3) 語学分科会委員長	文科	鶴田 達成
3) 情報リテラシー分科会委員長	文芸学部	福田 收
3) 教職課程分科会委員長	文芸学部	谷田貝 雅典
3) 学芸員課程分科会委員長	家政学部	古川 咲
4) 大学事務部長		須貝 成司
5) 教務課長		國守 浩輔
6) 学生支援課長		宮澤 康子
7) 機構長が指名する教員および職員	看護学部	岸田 泰子
7) 機構長が指名する教員および職員	建築・デザイン学部	稲葉 唯史
7) 機構長が指名する教員および職員	高等教育開発センター員	湯浅 且敏
7) 機構長が指名する教員および職員	リーダーシップ教育センター長	岩城 奈津
7) 機構長が指名する教員および職員	社会連携センター長	深津 謙一郎
7) 機構長が指名する教員および職員	大学企画課教学企画グループリーダー	平井 厚子
7) 機構長が指名する教員および職員	学生支援課キャリア支援グループリーダー	野田 豊樹
7) 機構長が指名する教員および職員	教務課教務グループリーダー	松尾 理代

- ・◎：委員長
- ・任期：2024年4月1日～2025年3月31日
- ・再任を妨げない。
- ・分科会の委員長は機構長が任命する。

教養分科会	委員
家政学部	村上 康子
文芸学部	深津 謙一郎
国際学部	◎ 石井 久生
看護学部	岸田 泰子
ビジネス学部	岩城 奈津
建築・デザイン学部	稲葉 唯史
生活科学科・文科	三井 直樹
体育	中島 早苗
キャリア教育	田野 恵
リーダーシップ教育	湯浅 且敏
共通教育センター運営会議委員	平井 厚子
共通教育センター運営会議委員	野田 豊樹
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	山中 大樹
共通教育センター長が必要と認める者	橋本 嘉代

語学分科会	委員
家政学部	清水 明子
文芸学部	國分 建志
国際学部	高野 麻衣子
看護学部	久保 正子
ビジネス学部	秦 小紅
建築・デザイン学部	田中 裕子
生活科学科・文科	◎ 鶴田 達成
共通教育センター運営会議委員	平井 厚子
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	ブラッドリー・アーウィン
	田口 亜紀
	岡見 さえ

情報リテラシー分科会	委員
家政学部	古川 貴雄
文芸学部	◎ 福田 收
国際学部	細野 豊樹
看護学部	山住 康恵
ビジネス学部	金城 敬太
建築・デザイン学部	藤本 麻紀子
生活科学科・文科	堀岡 勝
共通教育センター運営会議委員	平井 厚子
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	小國 美由紀

拡大教職課程分科会	委員
共通教育センター	◎ 藤田 雅夫
家政学部	小原 敏郎
文芸学部	谷田貝 雅典
国際学部	西村 史子
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
	矢後 敦子
	安藤 嘉奈子
共通教育センター長が必要と認める者	川上 雅子
	ブラッドリー・アーウィン
	岡田 ひろみ

学芸員課程分科会	委員
家政学部	◎ 古川 咲
文芸学部	池上 公平
国際学部	橋川 俊樹
建築・デザイン学部	福田 一郎
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
共通教育センター長が必要と認める者	矢後 敦子
	梅沢 恵

教職課程分科会	委員
家政学部	安藤 嘉奈子
文芸学部	◎ 谷田貝 雅典
国際学部	西村 史子
共通教育センター運営会議委員	松尾 理代
	矢後 敦子
	川上 雅子
共通教育センター長が必要と認める者	ブラッドリー・アーウィン
	岡田 ひろみ

幼少分科会	委員
家政学部	◎ 小原 敏郎
家政学部	清水 秀夫
教務課長	國守 浩輔

授業コード・科目名・クラス	19261 家庭科教育の理論と方法
科目区分	家政学部 資格に関する科目
開講年度・学期	2024年度前期
授業担当者	川上 雅子
履修年次	3年
単位数	4単位
授業回数	28
担当教員の実務経験	高等学校教諭（川上 雅子）
備考	<p>授業で課した課題（レポート、テスト等）に対するフィードバックは、以下のいずれかの方法で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該授業内または次回以降の授業内における解説・講評 ・kyonet等を通じた解説・講評 ・提出物に対する添削・返却 <p>Feedback on class assignments (reports, tests, etc.) will be given in one of the following ways:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ During the class or in the next class. ・ Comments and criticism via kyonet, etc. ・ Correction and return of submitted work.

カリキュラム・マップ	<p>教職課程（中学校教諭一種・高等学校教諭一種）履修系統図 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2022nendo/risyukeitouzu.kyoshoku.pdf この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します。</p>
科目概要	<p>本科目は、中学校・高等学校家庭科の教員免許取得のために設定された「教職に関する科目」のうち、本学で指定された科目のひとつである。「家庭科教育の理論と実践」と併せて、家庭科を指導する際に必要な基礎的内容を、情報機器及び教材をを活用しながら研究してゆく。週2回の授業をもって、この科目の修得単位を満たす。併設校や各自の近隣の学校での授業参観を前期の課題の1つとしている。授業公開日に出向き、なるべく教育現場に慣れておくことが求められる。</p>
到達目標（成績評価A）	<p>科目名にあるように、学生自ら主体的に家庭科教育の理論と方法を追究することが求められている科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業計画にある題材内容を自ら深めることができるようになる。 2.家庭科教育において還元できる文献や資料の収集、調査、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組む能力を身につけることができるようになる。 3.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい見識を身につけることができるようになる。
単位修得目標（成績評価C）	<ol style="list-style-type: none"> 1.授業計画にある基礎的な題材内容を自ら深めることができるようになる。 2.家庭科教育において還元できる文献や資料の収集、調査、グループワーク、討論、学外講師の講義などに取り組む能力を身につけることができるようになる。 3.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい基礎的な見識を身につけることができるようになる。

授業区分	対面授業
授業形態	講義／演習
授業方法	リアクションペーパー／クリッカー／レポート／プレゼンテーション／ディスカッション／グループワーク／フィールドワーク

授業の進め方の概要	<p>○第1回目の授業で、本学の教員養成目標及び本科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の流れを説明します</p> <p>○上記科目概要に記した内容を深めるために、講義で提示した主題に対しリサーチを行い、それをもとに繰り返されるグループワークなどアクティブラーニングとICT活用教育を基本とします</p> <p>○この科目の学びを通して、家政学部ディプロマポリシーにおける〈主体的に学び、諸課題に対処できる総合的な判断力と豊かな人間性を育む〉ことに資することができます</p> <p>○レポートなど方法については講義で順を追っていねいに説明するので、少しずつ思考や取り組みを深化させていくことができます</p> <p>○レポート提出時には必ずグループワークを行い、他者との比較を通して得た新たな見解を総合化し、それを追記した上で提出します</p> <p>○提出されたレポートは次回のレポートへ活かせるよう、コメントを加えて返却します</p> <p>○kyonetのクラスプロフィールで、授業前に授業内容や事前・事後学修を知ることができるので確認しましょう</p> <p>○ルーブリック評価に基づき、課題については授業中にコメントするとともに、提出されたレポートについてはコメントして返却しますので適宜改善していきましょう</p> <p>○家族・保育領域の教材研究としての児童学科付設〈はるにれ〉の見学を行います</p> <p>○教育・保育に関するボランティア活動や学校見学等を通して家庭科の内容を深める方法をもって、この科目の充実</p>
-----------	---

を図ることができます

※授業がオンライン化された場合には、授業方法、課題、課題の提出方法などに変更が生じることがあります。

第1回		
事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに履修の流れををHPより捉えておく ・共立女子大学の〈教員養成目標〉をHPより確認する ・シラバスにより科目の概要及びルーブリック評価を確認する ・テキスト、指導要領解説、教科書などの資料に目通しする ・自身の家庭科観を整理する 	1.5時間
授業内容	<p>【主題1】〈家庭科教育の理論と方法〉へのアプローチを知る 「この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します」</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目への視座、目標、日程、概要及び評価方法と家政学部ディプロマ・ポリシーとルーブリック評価規準を理解し、目標を確認する ・〈教員養成目標〉を理解する ・1年間の見通しと履修意義を確認する ・ルーブリック評価規準を確認する ・kyonetのクラスプロファイルの活用を知る（授業前に配信されるので、事前・事後学修を確認することができる） <p>【学修活動】HPやkyonet上のシラバスを各自リサーチするとともに、kyonet クラスプロファイルの活用の仕方を知る</p> <p>=====</p> <p>【主題2】「家庭科教育の理論と方法」に対する自身の姿勢とこれからの学びの視座を考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの履修目的をスピーチする ・新学習指導要領の実施状況を知る ・新しい教育の流れを知る ・アクティブ・ラーニング、ICT活用教育、デジタル教科書、カリキュラム・マネジメント、SDGsなど ・教育・保育に関するボランティア活動や学校見学を通して、家庭科の内容を深める方法を知る <p>【学修活動】主題に対する問いに基づきwebリサーチやグループワークや発表を行うことで他者の見解を知り、本時のまとめとして提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回を振り返り、1年間の見通しと自身の履修目的を新たに考える ・自らが受けてきた家庭科教育を振り返る ・テキスト〈家庭科の教師像〉を読む ・中高で使用していた教科書や資料を第1回目の授業の視点で、あらためて目通しする ・文科省のHPで学習指導要領の新しい視点を探る 	3時間
第2回		
授業内容	<p>【主題】自らが受けてきた家庭科教育を振り返る①+最新の教員採用動向について知る</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の家庭科の教員採用動向について知る ・自らが受けてきた家庭科教育を考える①—担当教員について <p>【学修活動】教員採用HPや講話を通し思考を拡げ、スピーチを行う</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・中高で使用していた教科書や資料を通して小・中・高校の家庭科の内容を振り返る ・SDGsやICT教育についてリサーチする ・家庭科教科書の新しい特徴を探る ・デジタル教科書を探る 	3時間
第3回		
授業内容	<p>【主題】自らが受けてきた家庭科教育を考える②—教科内容について</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業に関する問題とその背景にある課題について理解する ・自らが受けてきた家庭科教育を考える②—教科内容について <p>【学修活動】主題に沿ったグループディスカッションを通して他者の見解を知り思考を拡げ、これからの課題を認識する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領解説を概観し、その構造を理解しメモする 	3時間
第4回		
授業内容	<p>【主題】4年生の教員希望の学生たちの家庭科教育観を知る</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員希望の学生による講話、模擬授業などを通して、学びのステップを理解する ・それぞれの家庭科教育観を知る 	

	【学修活動】主題に沿ったワークショップを通して発問し、得られた新しい知見を発表するとともに成果をWeb課題として入力する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省のHPより学習指導要領や解説などの所在を知り、USBに保存する ・テキスト第3章21世紀の生活課題と家庭科教育を通読し、自分の考えをまとめる ・4年生の講話の感想を、Web課題として入力する 	3時間
第5回		
授業内容	<p>【主題】21世紀の生活課題と家庭科教育を考える（テキスト第3章）</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト資料によって得られた知見を、グループワークを通して意見交換する ・教科の背景にある現代思想と教材研究の意義を理解する <p>【学修活動】主題に沿った講話を聴き、知見を発表するとともにその総括的見解をレポート課題としてまとめる</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・テキスト第3章1－21世紀の生活環境と求められる人間像を通読する ・共立のはるにれのHPを確認する 	4時間
第6回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育を考える－21世紀の生活環境と求められる人間像（テキスト第3章）＋教材研究－児童学科の校舎3号館、はるにれの所在を確認する</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト資料によって得られた知見を、グループワークを通して意見交換する ・教科の背景にある現代思想と教材研究の意義を理解する ・HPよりはるにれの目的を知り、その所在を確認する <p>【学修活動】主題に沿った講話を聴き、知見を発表するとともにその総括的思考をレポート課題としてまとめる</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・テキスト第3章2－学校教育において求められる視点を通読する ・子育てひろばについてWeBリサーチする 	3時間
第7回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育を考える－学校教育において求められる視点（テキスト第3章）＋教材研究－自ら子ども期の記憶をたどる</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト資料によって得られた知見を、グループワークを通して意見交換する ・教科の背景にある現代思想と教材研究の意義を理解する ・自らの子ども期を振り返り、身近な子育てひろばの所在をリサーチする <p>【学修活動】主題に沿った講話を聴き、知見を発表するとともにその総括的思考をレポート課題としてまとめるとともに自分の子ども期の記憶と、身近な子育てひろばの所在を発表し共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・文科省HPをリサーチする ・はるにれ見学の視点を確認する 	3時間
第8回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育の構造－学習指導要領とはなにか、その位置を考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文科省HPのから最新の教科情報をリサーチする ・教材研究：はるにれを見学の視点を理解する（はるにれボランティア向け動画より） <p>【学修活動】文科省HPを概観しつつ、教材研究としてはるにれの見学の際の視点を動画より学びグループワークで共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・解説書の目次・構造を概観する ・はるにれ見学の知見をまとめる 	3時間
第9回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育の構造－学習指導要領と開設の通読</p> <p>【学修目標】以下の事項に拠り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説書の構造をリサーチする ・グループワークにより気づきを意見交換する ・はるにれを見学し、その知見の共有をする <p>【学修活動】学習指導要領とその解説を概観しつつ、教材研究としてはるにれの見学による視点をグループワークで共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・構造に関するワークシートを作成する ・教科書書評（家族・家庭生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第10回		

授業内容	<p>【主題】学習指導要領の内容分析の視点を知る1 + 中学校家庭科教科書書評1</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中高の一貫性を視座に、その目標と内容に注目して分析する ・教科書書評（家族・家庭生活）を行う <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高を比較検討するワークシートを作成する→レポート作成 ・教科書書評（食生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第11回		
授業内容	<p>【主題】学習指導要領の内容分析の視点を知る2 + 中学校家庭科教科書書評2</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中高の一貫性を視座に、その評価の観点に注目して分析する ・教科書書評（食生活）を行う <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・論点整理とレポート作成、完成させる ・発表準備 ・教科書書評（衣生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第12回		
授業内容	<p>【主題】学習指導要領解説の構造分析の視点を知る1 + 中学校家庭科教科書書評3</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説の構成を解釈する ・中学校編の教科の特徴を理解する ・教科書書評（衣生活）を行う <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要領における文末文のチェックをし、特徴をつかむ ・発表準備 ・教科書書評（住生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第13回		
授業内容	<p>【主題】学習指導要領解説の構造分析の視点を知る2 + 中学校家庭科教科書書評4</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説の文体構造を解釈する ・中学校編の分野の特徴を理解する ・教科書書評（住生活）を行う <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・テキスト第3章3 家庭科教育の視点を通読する ・教科書書評（消費生活と環境）を行い、レポートを作成する 	3時間
第14回		
授業内容	<p>【主題】家庭科教育を考える一家族・家庭において求められる視点（テキスト第3章3-1） + 中学校家庭科教科書書評5</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育を考える一家族・家庭において求められる視点：自立と共生を包含した生活価値と創造を理解する ・教科書書評（消費生活と環境）を行う <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・教科書書評（高校・家族・家庭生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第15回		
授業内容	<p>【主題】学習指導要領解説の構造分析の視点を知る3 + 高校家庭科教科書書評1</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説の構成を解釈する ・高校校編の教科の特徴を理解する ・教科書書評（高校・家族・家庭生活）を行う <p>【学修活動】作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・中高の家庭科教科書を通読する ・教科書書評（高校・食生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第16回		
授業内容	<p>【主題】学習指導要領解説の構造分析の視点を知る4 + 高校家庭科教科書書評2</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解説の文体構造を解釈する ・高校校編の教科の特徴を理解する 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書書評（高校・食生活）を行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を整理し、レポートを作成する ・中高の家庭科教科書を分析的視点で通読する ・採択過程をリサーチする ・教科書書評（高校・衣・住生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第17回		
授業内容	【主題】 教科書を考える＋高校家庭科教科書書評3 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教科書の編集と採択の過程と視点を知る ・教科書書評（高校・衣・住生活）を行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・家庭科教科書を通読する ・教科書書評（高校・消費生活）を行い、レポートを作成する 	3時間
第18回		
授業内容	【主題】 家庭科の具現化を考えるー方法論としてのホームプロジェクトの意義と方法＋高校家庭科教科書書評4 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育の具現化：方法論としてのホームプロジェクトの意義と方法を理解する ○教科書書評（高校・消費生活）のグループワークを行う 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・高校教科書の該当ページの比較をする ・学外講師の方への質問を考える 	3時間
第19回		
授業内容	【主題】 学外講師の講話ー高等学校編 大鷲麻理先生（予定） 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・講話より、高校家庭科の特徴と課題を知る ・高校生の特徴を理解する 【学修活動】 講話後、作成してきた課題に質疑応答とグループで意見交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・高校家庭科の課題を整理し、レポートを作成する 	3時間
第20回		
授業内容	【主題】 家庭科の具現化を考える1ー方法論としての消費者教育 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育における消費者教育：その変遷を知る ・家庭科教育としての消費者教育の独自性を考える 【学修活動】 主題に関する問いを基に意見交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育の実態をHPで調べる ・夏休みの教材研究の所在を確認する 	3時間
第21回		
授業内容	【主題】 家庭科の具現化を考える2ー方法論としての消費者教育 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育における消費者教育：その方法を考える 【学修活動】 主題に関する問いを基に意見交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における消費者教育の実態をHPで調べる ・テキスト第10章 家庭科の施設・設備について通読する 	3時間
第22回		
授業内容	【主題】 家庭科教育を考えるー学校教育において求められる視点：消費・環境問題克服へのアプローチ（テキスト第3章3－2） 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育を考えるー学校教育において求められる視点：消費・環境問題克服へのアプローチ ・教科書書評（消費生活と環境）と関連付けて課題を考える 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・講師への質問事項を考える 	3時間
第23回		
授業内容	【主題】 家庭科教育を考えるー家庭科教室の施設・設備 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる	

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の家庭科教室の施設・設備の実態について調べ、家庭科独自の課題を抽出する ・テキスト第10章（家庭科の施設・設備）の焦点を基に実態をリサーチする 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・教科と施設・設備、育まれる技能のつながりをまとめる ・家庭をめぐる社会課題について考える 	3時間
第24回		
授業内容	【主題】 家庭科教育を考えるー社会的要請から考える 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育への社会的要請から考える ・虐待・貧困 ・ヤングケアラー など 【学修活動】 提示された資料に基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・第3章 家庭科の社会課題を通読する 	3時間
第25回		
授業内容	【主題】 家庭科教育を考えるー学校教育において求められる視点：生活文化の継承と創造につなげる生活技術能力の育成（テキスト第3章3-3） 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育を考えるー学校教育において求められる視点：生活文化の継承と創造につなげる生活技術能力の育成 ・教科書書評（衣・食・住生活の文化）と関連付けて課題を考える 【学修活動】 作成してきたレポートに基づきグループで意見を交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を整理し、レポートを作成する ・テキスト3章 家庭科の社会課題 通読する 	3時間
第26回		
授業内容	【主題】 教材研究の方法1ー夏の休暇の課題を理解する 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活センターの見学について ・高齢者施設のリサーチについて ・新聞資料収集について ・指導細案について理解する 【学修活動】 説明を聴き、リサーチ方法と細案作成について共通理解する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科のミニ模擬授業に関する指導細案の立案を構想する 	3時間
第27回		
授業内容	【主題】 教材研究の方法2 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークにより、教材研究に基づいて指導細案について構想をまとめる ・他者からの助言により新しい知見を得る 【学修活動】 立案してきた構想を発表し意見交換したのち、全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導細案の修正を行う ・27回までの授業で得られた視点をまとめる 	3.5時間
第28回		
授業内容	【主題】 家庭科教育の理論と方法の総括 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科教育の理論と方法についての総括をスピーチする ・ルーブリック評価規準に照らしその成果と自らの課題を発表する ・夏の教材研究のプランを確認する 【学修活動】 作成してきたレポートに基づき、知見をはスピーチしたのち全体で視点を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・前期授業の資料等のまとめを行う ・後期授業に向けて夏季休暇中の課題の見通しを立てる 	3.5時間

評価の基準	S	A	B	C	D	X
	100～90点	89～80点	79～70点	69点～60点	59点以下	—
	到達目標を超えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している	単位修得目標を達成している	単位修得目標を達成できていない	受験資格無、レポート・課題未提出等
評価の方法と配分	○評価対象者となるのは、家政学部の出席規定に拠る ○主としてレポートによる					

○さらにレポートにかかわるリサーチ、それに基づくグループワークでの発言など協力・協働する姿勢も含む
 ○配分：①レポート内容（70%）②グループワークにおける参加・協働性（20%）③事前リサーチへの取り組み姿勢（10%）
 ※授業がオンライン化された場合には、授業方法、課題、課題の提出方法などに変更が生じることがあります。

評価基準ルーブリック

家政学部ディプロマ・ポリシーに連なるルーブリック評価表

	S	A	B	C	D
DP1-1-2 客観性・自律性【専門知識】	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から総合的に理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ高い使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割や使命を理解することができる	中等教育課程における家庭科教育を理解し、教師としての役割を理解することができる	中等家庭科教育の位置や内容と教職の使命について理解することができない
DP1-3 客観性・自律性【主体的判断力】	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を総合的に理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、その諸課題を自ら引き受ける主体的で内省的な判断や思考を他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、その諸課題を自ら引き受ける主体的思考を他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育と結び付けて考え他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において家庭科教育の意義を考え、他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において問題の認識や自己の課題を主体的に考えようとすることができない
DP2 課題発見・解決力	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して自己の教科観を的確かつ豊かな創造性や独自性をもって表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して自己の教科観を的確かつ創造性をもって表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して教科観を的確に表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して教科観を表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程においてリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して所与された課題に対し表現することができない
DP3 リーダーシップ	教員養成目標に鑑み、生活者の視点から現代の社会や教育に鑑	生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題に	現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題についてルーブリッ	家庭科教育について、他者との意見交換を通し	生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題に

	みて対処すべき課題について、自らの教科観や教師像を評価指標であるルーブリック（「指導案ルーブリック」や「模擬授業ルーブリック」含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、創造的で新しい家庭科教育を構築することができる	ついて、自らの教科観や教師像を評価指標であるルーブリック（「指導案ルーブリック」や「模擬授業ルーブリック」含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、家庭科教育を構築することができる	クに照らし他者と意見を交換しあい、家庭科教育の現状をとらえることができる	て考えることができる	ついて、自らの教科観や教師像をもって他者と協力・協働することができない
--	--	---	--------------------------------------	------------	-------------------------------------

テキスト	家庭科教育法 改訂版,佐藤文子・川上雅子,高陵社, 2010年,¥2000+税 小学校学習指導要領解説 家庭編,文科省,東洋館出版,2017,¥95+税 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編,文科省,開隆堂,2018,¥143+税 高等学校学習指導要領解説 家庭編,文科省,教育図書,2019¥462+税 小学校家庭科教科書 1冊 (288円) 中学校家庭科教科書 2冊 (680円×2) 高等学校家庭科教科書 2冊 (585円+791円)
参考文献・参考Webサイト等	〈学習指導要領関係〉 ・文部科学省HP ・国立教育政策研究所HP 〈授業研究関係〉 ・日本家庭科教育学会HP ・中高家庭科教科書出版社HP（開隆堂HP、東京書籍HP、教育図書HP、大修館HP、実教出版HPなど）

課題図書

履修者へのメッセージ	川上雅子研究室：3号館6階603A（家庭科教育研究室） 月曜日・水曜日昼休み在室
------------	---

授業コード・科目名・クラス	19263 家庭科教育の理論と実践
科目区分	家政学部 資格に関する科目
開講年度・学期	2024年度後期
授業担当者	川上 雅子、服部 江里子（助手）
履修年次	3年
単位数	4単位
授業回数	28
担当教員の実務経験	高等学校教諭（川上 雅子）
備考	<p>授業で課した課題（レポート、テスト等）に対するフィードバックは、以下のいずれかの方法で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該授業内または次回以降の授業内における解説・講評 ・kyonet等を通じた解説・講評 ・提出物に対する添削・返却 <p>Feedback on class assignments (reports, tests, etc.) will be given in one of the following ways:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ During the class or in the next class. ・ Comments and criticism via kyonet, etc. ・ Correction and return of submitted work.

カリキュラム・マップ	<p>教職課程（中学校教諭一種・高等学校教諭一種）履修系統図 https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/kyomu/2022nendo/risyukeitouzu.kyoshoku.pdf この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します。</p>
科目概要	<p>本科目は、中学校・高等学校家庭科の教員免許取得のために設定された「教職に関する科目」のうち、本学で指定された科目のひとつである。「家庭科教育の理論と方法」と併せて、家庭科を指導する際に必要な基礎的内容を捉えてゆく。週2回の授業をもって、この科目の修得単位を満たす。授業の後半には、学習指導案に基づき模擬授業を行いながら、相互批評においても多角的な視野を養うことができるようになる。</p>
到達目標（成績評価A）	<p>科目名に通じるように、アクティブラーニングを通して学生自ら主体的に家庭科教育の理論と実践を探ることが求められる科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.授業計画にある題材内容を深める文献や資料の収集、調査、観察、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組むことで、自らの教育観を明示化できるようになる。 2.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい見識を身につけることができるようになる。
単位修得目標（成績評価C）	<ol style="list-style-type: none"> 1.授業計画にある題材内容を深める文献や資料の収集、調査、観察、グループワーク、討論、学外講師の講義などに積極的に取り組むことで、自らの教育観を指導案や模擬授業において明示化できるようになる。 2.教育現場の現況を理解するとともに、家庭科教育の指導者としてふさわしい基礎的な見識を身につけることができるようになる。

授業区分	対面授業
授業形態	講義／演習
授業方法	リアクションペーパー／クリッカー／レポート／プレゼンテーション／ピアレビュー／ディスカッション／グループワーク／フィールドワーク

授業の進め方の概要	<p>○第1回目の授業で、本学の教員養成目標及び本科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の流れを説明します</p> <p>○上記科目概要に記した内容を深めるために、講義で提示した主題に対しリサーチを行い、それをもとに繰り返されるグループワークなどアクティブラーニングとICT活用教育を基本とします</p> <p>○この科目の学びを通して、家政学部ディプロマポリシーにおける〈主体的に学び、諸課題に対処できる総合的な判断力と豊かな人間性を育む〉ことに資することができます</p> <p>○レポートなど方法については講義で順を追っていねいに説明するので、少しずつ思考や取り組みを深化させていくことができます</p> <p>○レポート提出時には必ずグループワークを行い、他者との比較を通して得た新たな見解を総合化し、それを追記した上で提出します</p> <p>○提出されたレポートは次回のレポートへ活かせるよう、コメントを加えて返却します</p> <p>○kyonetのクラスプロファイルで、授業前に授業内容や事前・事後学修を知ることができるので確認しましょう</p> <p>○ルーブリック評価に基づき、課題については授業中にコメントするとともに、提出されたレポートについてはコメントして返却しますので適宜改善していきましょう</p> <p>○家族・保育領域の教材研究としての児童学科付設〈はるにれ〉の見学を行います</p> <p>○教育・保育に関するボランティア活動や学校見学等を通して家庭科の内容を深める方法をもって、この科目の充実を図ることができます</p> <p>※授業がオンライン化された場合には、授業方法、課題、課題の提出方法などに変更が生じることがあります。</p>
-----------	---

第1回		
事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の〈教員養成目標〉とこの科目の到達目標、カリキュラムマップに記載のディプロマ・ポリシーとの対応関係、履修系統図を用いた当該科目の教育課程上の位置付けとその後の履修の流れを確認しておく ・ ルーブリック評価を確認する ・ 前期の学習を概観しておく ・ 前期に出された課題の提出準備 	1.5時間
授業内容	<p>【主題1】〈家庭科教育の理論と実践〉へのアプローチを知る 「この科目の科目概要、到達目標、履修系統図上の位置づけをもとに、当該科目およびその後の履修の流れを説明します」</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目への視座、目標、日程、概要及び評価方法と家政学部ディプロマ・ポリシーとルーブリック評価規準を理解し、目標を確認する ・ 〈教員養成目標〉を理解する ・ 後期への見通しと履修意義を確認する ・ ルーブリック評価規準を確認する ・ kyonetのクラスプロファイルの活用を知る（授業前に配信されるので、事前・事後学修を確認することができる） <p>【学修活動】HPやkyonet上のシラバスを各自リサーチするとともに、kyonet クラスプロファイルの活用の仕方を知る</p> <p>=====</p> <p>【主題2】前期からの課題：家庭科の施設・設備を考える1－視点と意義</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、指導案ルーブリック通して視点を確認する ・ レポートをもとに、指導細案についてミニ模擬授業を行い、模擬授業ルーブリックの視点で検討する <p>【学修活動】主題に対する指導細案と模擬授業のルーブリック評価を行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏期休暇の課題を整理する ・ 資料を精読する ・ 学内施設設備点検・計測 	3時間
第2回		
授業内容	<p>【主題】前期からの課題：家庭科の施設・設備を考える2－視点と意義</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、指導案ルーブリック通して視点を確認する ・ レポートをもとに、指導細案についてミニ模擬授業を行い、模擬授業ルーブリックの視点で検討する <p>【学修活動】主題に対する指導細案と模擬授業のルーブリック評価を行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高時代の施設設備を思い起こす ・ 細案レポートの提出準備を行う 	3時間
第3回		
授業内容	<p>【主題】家庭科の施設・設備を考える3－視点と意義</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、指導案ルーブリック通して視点を確認する ・ レポートをもとに、指導細案についてミニ模擬授業を行い、模擬授業ルーブリックの視点で検討する <p>【学修活動】主題に対する指導細案と模擬授業のルーブリック評価を行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートの完成のために内容を整える 	3時間
第4回		
授業内容	<p>【主題】教材研究1－高齢社会と教育を考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、夏期休暇中に見学した高齢者施設の報告と討論する ・ 家庭科教育への示唆をまとめる <p>【学修活動】主題に対するグループワークを行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートを作成する ・ 中高の家庭科教科書を精読する 	3時間
第5回		
授業内容	<p>【主題】教材研究2－消費者問題と教育①について考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポートをもとに、夏期休暇中に見学した高齢者施設の報告と討論する ・ 家庭科教育への示唆をまとめる <p>【学修活動】主題に対するグループワークを行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5回目の論点を整理して6回目に向けてレポートを作成する 	3時間
第6回		

授業内容	<p>【主題】教材研究3－消費者問題と教育②について考える</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートをもとに、夏期休暇中に見学した高齢者施設の報告と討論する ・家庭科教育への示唆をまとめる <p>【学修活動】主題に対するグループワークを行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートを作成する ・講師への質問を考える 	3時間
第7回		
授業内容	<p>【主題】学外講師の講話－中学校編 堀木・細梅恭子先生</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話より、教師の教科観と中学校家庭科の特徴と独自性を知る ・中学生の特徴を理解する <p>【学修活動】講話後、質疑応答ののち、グループワークにより知見を共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・論点を整理する ・レポートを作成しWeb提出する 	3時間
第8回		
授業内容	<p>【主題】指導案の書き方1</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる教材研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の書き方1－指導案の本質を知る ・指導案事例からの気づき <p>【学修活動】既存の指導案事例に目通ししたのち、指導案の本質を探る</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第10章指導案の書き方、資料の通読・論点整理 ・PC操作確認する 	3.5時間
第9回		
授業内容	<p>【主題】指導案の書き方2</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる教材研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の書き方2－指導案の題材名・目的 ・指導案事例からの気づき <p>【学修活動】既存の指導案事例に目通ししたのち、指導案における題材と目標を探る</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・資料通読・論点整理する 	3.5時間
第10回		
授業内容	<p>【主題】指導案の書き方3</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる教材研究の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の書き方3－指導案の評価規準 ・指導案事例からの気づき <p>【学修活動】既存の指導案事例に目通ししたのち、指導案における評価規準探る</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・資料通読・論点を整理する ・夏期休暇中のレポート課題を整理する 	3.5時間
第11回		
授業内容	<p>【主題】教材研究4－新聞を利用した資料の検討をする</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートをもとに、夏期休暇中に収集した新聞の報告 ・家庭科教育への示唆をまとめる <p>【学修活動】主題に対するグループワークを行い、課題を提出する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・資料通読・論点整理 ・指導案1の作成を行う 	3.5時間
第12回		
授業内容	<p>【主題】指導案1の検討〈家庭科のガイダンス〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導案についてグループワークで指導案ルーブリックに基づき助言し合う ・改善の視点を見出す <p>【学修活動】作成した指導案についてペアワーク・グループワークを通して、改善への多様な助言を受けるとともに、適切な指摘を行う</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案1の修正（ルーブリックによる改善） 	3.5時間
第13回		
授業内容	<p>【主題】指導案2の検討〈衣生活・食生活教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した指導案についてグループワークで指導案ルーブリックに基づき助言し合う 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・改善の視点を見出す 【学修活動】 作成した指導案についてペアワーク・グループワークを通して、改善への多様な助言を受けるとともに、適切な指摘を行う	
事後学修・次回事前学修	○指導案の構想の発表を準備する	3.5時間
第14回		
授業内容	【主題】 模擬授業と指導案1の検討〈家庭科のガイダンス〉1 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する 【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の作成 ・模擬授業1-1へのループリック評価票の記入 	4時間
第15回		
授業内容	【主題】 模擬授業と指導案1の検討〈家庭科のガイダンス〉2 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する 【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案2の作成と構想を練る ・模擬授業1-2へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第16回		
授業内容	【主題】 模擬授業と指導案2の検討〈衣生活・食生活〉1 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・効果のあるICT教材の検討とデジタル教科書の使用 ・検討を行い適切に助言する 【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正を行う ・4年生への質問を考える 	4時間
第17回		
授業内容	【主題】 4年生による教育実習後のワークショップ 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習と教員採用試験の体験談から、自分の将来を考える ・それぞれの具体的な自己課題をワークショップを通して自覚する 【学修活動】 4年生の教育実習に関する講話と模擬授業、教員採用試験の情報を共有する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの完成 ・指導案の完成 	3.5時間
第18回		
授業内容	【主題】 年間指導計画の立案の視点を考える 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の所在 ・指導計画の種類を知る ・指導計画事例を概観する ・指導計画の書き方を知る 【学修活動】 教科書会社のHPや教育委員会のHPなど、Web上の信頼できる情報から年間指導計画事例を概観し、年間指導計画の構想を考える	
事後学修・次回事前学修	・論点整理と構想を練る	3時間
第19回		
授業内容	【主題】 模擬授業と指導案3-1の検討〈中学校における消費者教育〉 【学修目標】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・効果のあるICT教材の検討とデジタル教科書の使用 ・検討を行い適切に助言する 【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業3-1へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第20回		

授業内容	<p>【主題】模擬授業と指導案3-2の検討〈高校における消費者教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する一効果のあるICT教材の検討 ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業3-2へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第21回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業と指導案4-1の検討〈新聞記事を活かした家族・家庭・子どもに関する教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する一効果のあるICT教材の検討 ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業4-1へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第22回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業と指導案4-2の検討〈高校における高齢社会教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する一効果のあるICT教材の検討 ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業4-2へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第23回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業と指導案5の検討〈SDGsと家庭科のカリキュラム・マネジメントによる教育〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する一効果のあるICT教材の検討 ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の修正、完成へ ・模擬授業5へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第24回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業6-1〈自由課題〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導案の計画 ・発表準備 ・模擬授業6-1へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第25回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業6-2〈自由課題〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導案の計画 ・発表準備 ・模擬授業6-2へのループリック評価票の記入 	3.5時間
第26回		
授業内容	<p>【主題】年間指導計画案一発表と討論</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成してきた年間指導計画について、指導案への基本的理念を理解する ・樹上構成、配列、時間数などから他者の教科観の独自性を知るとともに、自身の長を捉える <p>【学修活動】作成してきた指導計画案をグループワークを通して意見交換するとともに、全体で共有する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案構想の論点整理を行う 	3.5時間
第27回		
授業内容	<p>【主題】模擬授業6-3〈自由課題〉</p> <p>【学修目標】以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業ループリックにおける批評のポイントを確認する ・検討を行い適切に助言する <p>【学修活動】 模擬授業を通しその検討を行い、発表するとともにループリック評価を記入する</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業6-2へのループリック評価票の記入 ・論点整理 ・総括レポートの作成 ・居住地の教員採用試験制度と教育委員会の教育方針のサーチ 	3.5時間
第28回		
授業内容	<p>【主題】 家庭科教育の理論と実践の総括と教育実習と教職を考える</p> <p>【学修課題】 以下の事項に抛り、主題への思考を深めることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生の指導案事例を分析する ・居住地の教員採用試験制度と教育委員会の教育方針のサーチ方法を探る ・家庭科教育の総括ループリック評価規準に照らした成果と自己課題について発表する ・ICT機器の教材としての問題や可能性を考える <p>【学修活動】 教育実習生の指導案事例や教員採用試験への具体的な示唆を探ったのち、自らの1年間の家庭科教育を振り返り、科目ループリックに抛り成果と自己課題と家庭科教育の可能性をスピーチする</p>	
事後学修・次回事前学修	<ul style="list-style-type: none"> ・総括レポートの作成 ・作成した資料の整理 	3.5時間

評価の基準	S	A	B	C	D	X
	100～90点	89～80点	79～70点	69点～60点	59点以下	—
	到達目標を超えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標と単位修得目標の間にあるレベルを達成している	単位修得目標を達成している	単位修得目標を達成できていない	受験資格無、レポート・課題未提出等
評価の方法と配分	<p>○評価対象者となるのは、家政学部の出席規定に拠る</p> <p>○主として指導案（レポート）と模擬授業による</p> <p>○さらにレポートにかかわるリサーチ、それに基づくグループワークでの発言など協働する姿勢も含む</p> <p>○配分：①指導案課題の内容（70%）②グループワークや模擬授業における参加・協働性（20%）③文献リサーチなどへの取り組み姿勢（10%）</p> <p>※授業がオンライン化された場合には、授業方法、課題、課題の提出方法などに変更が生じることがあります。</p>					

評価基準ループリック	<p align="center">家政学部ディプロマ・ポリシーに連なるループリック評価表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>S</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>DP1-1-2 客観性・自律性【専門知識】</td> <td>中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から総合的に理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ高い使命感を抱くことができる</td> <td>中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ使命感を抱くことができる</td> <td>中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割や使命を理解することができる</td> <td>中等教育課程における家庭科教育を理解し、教師としての役割を理解することができる</td> <td>中等家庭科教育の位置や内容と教職の使命について理解することができない</td> </tr> <tr> <td>DP1-3 客観性・自律性【主体的判断力】</td> <td>中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を総合的に理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、</td> <td>中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、その諸課題</td> <td>中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育と結び付けて考え他者に説</td> <td>中等家庭科の目標や内容の探究過程において家庭科教育の意義を考え、他者に説明することができる</td> <td>中等家庭科の目標や内容の探究過程において問題の認識や自己の課題を主体的に考えようとすることができない</td> </tr> </tbody> </table>						S	A	B	C	D	DP1-1-2 客観性・自律性【専門知識】	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から総合的に理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ高い使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割や使命を理解することができる	中等教育課程における家庭科教育を理解し、教師としての役割を理解することができる	中等家庭科教育の位置や内容と教職の使命について理解することができない	DP1-3 客観性・自律性【主体的判断力】	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を総合的に理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、その諸課題	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育と結び付けて考え他者に説	中等家庭科の目標や内容の探究過程において家庭科教育の意義を考え、他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において問題の認識や自己の課題を主体的に考えようとすることができない
	S	A	B	C	D																		
DP1-1-2 客観性・自律性【専門知識】	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から総合的に理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ高い使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割を多角的・包括的にとらえ使命感を抱くことができる	中等教育課程における家庭科教育の理念、目標や内容を社会や教育の現況から理解するとともに、教師として果たすべき役割や使命を理解することができる	中等教育課程における家庭科教育を理解し、教師としての役割を理解することができる	中等家庭科教育の位置や内容と教職の使命について理解することができない																		
DP1-3 客観性・自律性【主体的判断力】	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を総合的に理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育の意義と結び付けるとともに、その諸課題	中等家庭科の目標や内容の探究過程において、生徒の置かれている社会の現況に対する課題を理解し、家庭科教育と結び付けて考え他者に説	中等家庭科の目標や内容の探究過程において家庭科教育の意義を考え、他者に説明することができる	中等家庭科の目標や内容の探究過程において問題の認識や自己の課題を主体的に考えようとすることができない																		

	その諸課題を自ら引き受ける主体的で内省的な判断や思考を他者に説明することができる	を自ら引き受ける主体的思考を他者に説明することができる	明することができる		
DP2 課題発見・解決力	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して自己の教科観を的確かつ豊かな創造性や独自性をもって表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して自己の教科観を的確かつ創造性をもって表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して教科観を的確に表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程において、所与された課題に対しリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して教科観を表現することができる	中等家庭科の目標や内容の具現化過程においてリサーチ、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通して所与された課題に対し表現することができない
DP3 リーダーシップ	教員養成目標に鑑み、生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題について、自らの教科観や教師像を評価指標であるルーブリック（「指導案ルーブリック」や「模擬授業ルーブリック」含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、創造的で新しい家庭科教育を構築することができる	生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題について、自らの教科観や教師像を評価指標であるルーブリック（「指導案ルーブリック」や「模擬授業ルーブリック」含む）に照らし他者と協力・協働して意見を交換しあい、家庭科教育を構築することができる	現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題についてルーブリックに照らし他者と意見を交換しあい、家庭科教育の現状をとらえることができる	家庭科教育について、他者との意見交換を通して考えることができる	生活者の視点から現代の社会や教育に鑑みて対処すべき課題について、自らの教科観や教師像をもって他者と協力・協働することができない

テキスト	<p>以下、前期科目「家庭科教育の理論と方法」と同じ 家庭科教育法 改訂版,佐藤文子・川上雅子,高陵社, 2010年, ¥2000+ 税 小学校学習指導要領解説 家庭編,文科省,東洋館出版,2017, ¥95+ 税 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編,文科省,開隆堂,2018, ¥143+ 税 高等学校学習指導要領解説 家庭編,文科省,教育図書,2019 ¥462+ 税 小学校家庭科教科書 1冊 (288円) 中学校家庭科教科書 2冊 (680円×2) 高等学校家庭科教科書 2冊 (585円+791円)</p>
参考文献・参考Webサイト等	<p>〈学習指導要領関係〉 ・文部科学省HP ・国立教育政策研究所HP 〈授業研究関係〉 ・日本家庭科教育学会HP ・中高家庭科教科書出版社HP (開隆堂HP、東京書籍HP、教育図書HP、大修館HP、実教出版HPなど)</p>
課題図書	
履修者へのメッセージ	<p>川上雅子研究室：3号館6階603A (家庭科教育研究室) 月曜日・水曜日昼休み在室 ○介護等体験、臨地実習などの欠席届は、なるべく早く提出すること</p>

教職課程履修のみなさんへ

202503 ガイダンス
家庭科教育：川上雅子

教員採用試験の準備/説明会について

こんにちは。家庭科教育（3年次）を担当している川上雅子です。家庭科履修のみなさんとは3年次にお会いします。今春、21D 家庭科教職課程の卒業生は10名が教員に就きます。教職課程履修のすべてのみなさんに、教職への道が開かれています。課程履修を続けるか迷っているみなさんには、簡単に履修放棄をせず、自らの長い人生の可能をお考え下さい。

近年、教員採用試験の早期化がなされ、前倒し受験という形で、3年次に受験可能な自治体が出てまいりました。家庭科の新4年生は、3年次受験で6名が一次合格しています。

みなさんは、すでに1年次に西村史子先生の「教職入門」の授業で、近年の多様な教員採用について講義を受けていると思います。今般、それらをベースに、採用試験の勉強方法の一つを紹介する機会を設けました。本学図書館で行います。

家庭科履修生を中心としますが、他教科の履修生にも参考になるようにお話ししますので、教科を超えて参加できます。

1. 説明会日程：① 3月27日(木)16時～16時40分
② 4月1日(火)10時50分～11時30分
2. 集合場所：本学図書館4階入り口 ⇒全員そろって入館します
3. 事前連絡：川上雅子宛 kawakamimasako@kyoritsu-wu.ac.jp に、以下の要件を記して3月26日(水)15時までにメールをすること。
 - ・【**標題**】には、学籍番号・名前・「教科」を記す。
 - ・【**本文**】には、A)説明会希望日：上記①か②
B)受験希望の自治体名
C)教科+中・高別

=====

4. みなさんへの事前宿題：
 - 1)令和8年度採用試験情報(試験日程・試験内容)について、希望する自治体のHPから調べてくること。
 - 2)本学図書館に配架されている教員採用試験受験情報雑誌の『教職課程』(協同出版)と『教員養成セミナー』(時事通信出版局)の配架場所を調べてくること。

以上

